

KSK2運用で 税務行政はこう変わる

データで説明する時代になります。

令和8年9月24日から、国税庁の新たな基幹システム
「KSK2(次世代国税総合管理システム)」が本格運用されます。
これにより、税務行政は経験則からデータ活用へと
大きく変わります。

税務行政の5つの変化

① 紙から データへ



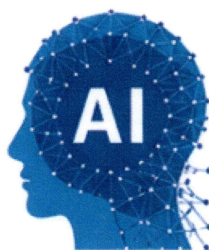
紙の申告書や添付資料は、
AI-OCR等でデータ化。
人が一枚ずつ確認する時代
から、AIが自動で分析する
時代へ。

② あらゆる情報を 横断的に把握



申告データ、金融機関情報、
取引情報などを全国レベルで
統合・分析。申告の整合性や
不自然な取引を横断的に確認
できるようになります。

③ AIが調査対象を 科学的に抽出



これまでの「担当調査官の
経験」から「AI・データ分析」へ。
申告漏れの可能性が高い
納税者をより精度高く
絞り込めるようになります。

④ 税務調査も 効率化・高度化



売上の推移・経費の増減・
同業比較・過年度比較などを
事前に分析し、調査の効率化・
精度向上が図られます。

⑤ e-Taxも 新時代へ



新データ仕様・新様式・
ソフトウェア対応が順次公開。
e-Taxの利便性と重要性は
さらに高まります。

企業が今から備えること

✓ 正確な帳簿



日々の取引を正確に記帳し、
帳簿と証拠の整合性を
確保しましょう。

✓ 電子帳簿保存法 への対応



電子データを適切に保存し、
検索性・真実性・可視性を
確保しましょう。

✓ インボイスの 活用



インボイス制度に対応し、
取引情報を正確に管理
しましょう。

✓ 会計ソフトの 更新・活用



ソフトの最新版への更新と、
データ連携・バックアップ
体制を整えましょう。

✓ 社内体制の 整備



税務を経営課題としてとらえ、
社内の役割分担と教育を
進めましょう。

法人会が 伝えたいこと

正しく記帳し、電子データを適切に保存している企業にとっては、
むしろ説明しやすい時代になります。

データを整えておくことで、調査時の負担が軽減されるだけでなく、
金融機関や取引先からの信頼向上、経営判断のスピードアップなど、企業経営に大きなプラスにつながります。



正確に記録



安全に保管



信頼につながる

法人会は、企業の税務対応を力強くサポートします。



- ✓ 税制や制度の最新情報をいち早く、わかりやすくお届けします。
- ✓ 研修会やセミナー、相談体制を通じて、企業の税務リスク対策をサポートします。
- ✓ 地域の経営者同士のネットワークで、互いに学び合い、健全な経営を後押しします。

税務行政が変わる時代だからこそ、
正しい知識を学び、互いに高め合う。
それが法人会に集う価値です！



KSK2は、税務行政の仕組みそのものが変わる大きな転換点です。
「制度が始まってから慌てる」のではなく、「始まる前に備える」ことが、
健全な企業経営と適正な申告につながります。

公益社団法人
栗原法人会

税のオピニオンリーダー **それが** 経営者の団体「法人会」です